

今月の谷口雅春先生のお言葉

子供の真の力を引き出すために

「夢を描く」ということ

心に夢をえがくということは何でも大きなことを成し
就げるのに大切な事であります。夢をえがくと言うの
は、決して出鱈目なことを考えるのではなく、「必ず出
来る」と未来におこる善いことを心に思い浮べることで
あります。コロンブスは、これから西へ西へと進んで行
けば大陸があると、まだ肉眼に見えない世界を心にえが
いて突進して行きましたから、とうとう其の心にえがい
たアメリカ大陸を発見したのです。まだ見えないが、心

の眼でじつと未来におこつて来る善き世界を、善き状態
を、一層よき自分を、心に描くことを「夢を描く」と
云うのです。(中略)しかし、心に強く夢をえがいても、
他を害して自分がよくなるうとするようなことを心にえ
がいてはなりません。
(新版『生活読本』64頁65頁)

人のため、世のためになることを心にえがく

すべて、金とか、権力とか、名声とか、贅沢とか、利
己的なことを心に描いて成就した場合には、多少とも自
分を悩ますものがつきそうて来るのであります。真に悩

みのない生活を送るには、そんな利己的なものを心にえがかず、人につくすこと、世につくすこと、どうしたら人のために、また世のためになるかということを考えてサービスをつとめて行くようにすれば、金も名譽も地位も自然に得られてくるのであります。金や名前や地位などは目的にすべきものではなく、世のため、人のためにつくした誠が自然にあらわれた結果でなければならぬのです。

(新版『生活読本』66頁)

子供の内には無限の潜在能力がある

人間の内には実に無限の潜在能力が埋蔵せられているのである。深く穿つに従ってどれだけでも豊かにその潜在能力を掘り出すことが出来るのである。穿つとは自覚するということである。自覚しさえすれば埋蔵せる宝は常に掌中のものとなるのである。だから表面にある能力だけを自分の全部だと子供に思わすな。表面にある「自分」は「真の自分」の唯の「小出し」にしか過ぎな

いことを知らせよ。「小出し」は使うのに便利かもしれないが、この「小出し」を自分の全部だと思ってしまうならば大いなる発達は望めないのである。常に子供に教えて小成に安んずるなといえ。小成は自分の「小出し」に過ぎないこと、今ある彼の能力はすべて「小出し」に過ぎないこと、「小出し」は決して誇るに足りないこと、つねに「小出し」に満足せず、本源、即ち無限の潜在能力(神)より汲むように努力すること——常にかくの如き真理を子供に解る言葉で教えるように心懸ければ、現在の自分に満足する子供の傲慢心は打碎かれ、驕傲は消滅せしめられ、永遠に能力の伸びる精神的基礎は築かれるのである。(新編『生命の真相』第22巻159〜160頁)

子供は親に喜ばれることを喜ぶ

「非常に上手に出来たが、ここをもう少しこうしたら一層出来ばえがよくなるだろう。それ御覧、こうなるだろう。今度はここをもう少し注意してやって御覧なさい。

きつとまだまだ上手になる。この子は少しでも善くないところはずぐ改める子だから、どれだけでも上手になる子だ。将来どれだけ天才になるか、私はお前を楽しみにしているのだ」こういうふうな言葉を使つて、善くないところを改善することに歓びを見出すような誘導法を用いるのが最も好いのである。常に子供を批評するときには、確定的な言葉で、彼の将来を祝福してやり、子供の到達に親たちが望みをかけており、彼が到達することが真に親たちの喜びであることを、ハッキリと彼の心に感じられるようにしてやるが好いのである。子供は親に喜ばれることをどんなに喜ぶか！（中略）子供は親に喜ばれるためになら、どんな辛い努力でも吝まないのである。「私が上手になつても誰も喜んでくれるものがない」——こう子供が思うようになっては、彼の進歩は行き止りである。（新編『生命の實相』第22巻162～163頁）

子供の善さ、美点、長所を強調せよ

されば諸君よ、先ず子供に教えよ。彼自身の生命の尊さを。——人間の生命の尊さを——そこには無限力の神が宿っていることを。展けば無限の力を発し、無限の天才をあらわし、彼自身の為のみならず、人類全体の輝きとなるものが彼自身の内に在ることを教えよ。彼をして彼が地上に生命を受けて来たのは、自分自身のためのみでないこと。人類全体の輝きを増し、人類全体の幸福を増すために神が偉大な使命を彼に与えて来たのであることを教えよ。この自覚こそ、最初の最も根本的な自覚であつて、この自覚が幼時に植えつけられたものは必ず横道に外れないで、真に人類の公けな歓びのため何事かを奉仕しようと喜び励む人になるのである。

常に子供を鞭撻して、彼の善さを力説せよ。彼の美点を強調せよ、自分自身の有つ長所を自覚せしめよ。ここに子供を教養する極意があるのである。（新編『生命の實相』第22巻174頁）